

反射テスト 数列 群数列の一般項の推定 01

1. 一般項 a_n を推定せよ. 証明は不必要. (S 級 1 分 40 秒, A 級 3 分, B 級 5 分, C 級 7 分)

(1) 4, 6, 9, 11, 14, 16, 19, ...

(2)

n	1	2	3	4	5	6	7	8	9	...
a_n	1	0	$\frac{1}{3}$	0	$\frac{1}{9}$	0	$\frac{1}{27}$	0	$\frac{1}{81}$...

2. 一般項 a_n を推定せよ. 証明は不必要. (S 級 1 分 40 秒, A 級 3 分, B 級 5 分, C 級 7 分)

(1) 1, 5, 7, 11, 13, 17, 19, ...

(2)

n	1	2	3	4	5	6	7	8	9	...
a_n	1	0	$\frac{1}{3}$	$\frac{1}{2}$	0	$\frac{1}{9}$	$\frac{1}{4}$	0	$\frac{1}{27}$...

反射テスト 数列 群数列の一般項の推定 01 解答解説

1. 一般項 a_n を推定せよ. 証明は不必要. (S 級 1 分 40 秒, A 級 3 分, B 級 5 分, C 級 7 分)

★ 一般項の推定

どんな問題でも使える技は, 一般項を推定し, 数学的帰納法を用いて証明してしまう方法である. 漸化式から一般項を求める方法が思いつかないときに使う. もちろん推定ができなければお手上げである.

(1) 4, 6, 9, 11, 14, 16, 19, ...

階差数列が, 2, 3, 2, 3, 2, 3, ...

⇒ 2 項ごとに組分けして考える.

$$n = 2k - 1, 2k \quad (k = 1, 2, 3, \dots)$$

と場合分けして考えよう.

奇数項は公差 5 の等差数列.

$$\Rightarrow a_{2k-1} = 4 + 5(k-1)$$

偶数項も公差 5 の等差数列.

$$\Rightarrow a_{2k} = 6 + 5(k-1)$$

∴ $n = 1, 2, 3, \dots$ に対して,

ある自然数 k を用いれば,

$$\begin{cases} 5k - 1 & (n = 2k - 1) \\ 5k + 1 & (n = 2k) \end{cases}$$

☆別解 表記の仕方は別にも考えられる.

$n = 1, 2, 3, \dots$ に対して,

ある 0 以上の整数 k を用いれば,

$$\begin{cases} 5k + 4 & (n = 2k + 1) \\ 5k + 1 & (n = 2k) \end{cases}$$

(2)

n	1	2	3	4	5	6	7	8	9	...
a_n	1	0	$\frac{1}{3}$	0	$\frac{1}{9}$	0	$\frac{1}{27}$	0	$\frac{1}{81}$...

0 が 1 項とびで出現している.

2 項ごとに組み分けして考える.

$$n = 2k - 1, 2k \quad (k = 1, 2, 3, \dots)$$

と場合分けして考えよう.

奇数項は公比 $\frac{1}{3}$ の等比数列.

$$\Rightarrow a_{2k-1} = \left(\frac{1}{3}\right)^{k-1}$$

偶数項は 0 である.

$$\Rightarrow a_{2k} = 0$$

∴ $n = 1, 2, 3, \dots$ に対して,

ある自然数 k を用いれば,

$$a_n = \begin{cases} \left(\frac{1}{3}\right)^{k-1} & (n = 2k - 1) \\ 0 & (n = 2k) \end{cases}$$

☆別解 表記の仕方は別にも考えられる.

$n = 1, 2, 3, \dots$ に対して,

ある 0 以上の整数 k を用いれば,

$$a_n = \begin{cases} \left(\frac{1}{3}\right)^k & (n = 2k + 1) \\ 0 & (n = 2k) \end{cases}$$

2. 一般項 a_n を推定せよ. 証明は不必要. (S 級 1 分 40 秒, A 級 3 分, B 級 5 分, C 級 7 分)

★ 一般項の推定

どんな問題でも使える技は, 一般項を推定し, 数学的帰納法を用いて証明してしまう方法である. 漸化式から一般項を求める方法が思いつかないときに使う. もちろん推定ができなければお手上げである.

(1) 1, 5, 7, 11, 13, 17, 19, ...

階差数列が, 4, 2, 4, 2, 4, 2, ...
 ⇒ 2 項ごとに組分けして考える.

$$n = 2k - 1, 2k \quad (k = 1, 2, 3, \dots)$$

と場合分けして考えよう.

奇数項は公差 6 の等差数列.
 ⇒ $a_{2k-1} = 1 + 6(k - 1)$

偶数項も公差 6 の等差数列.
 ⇒ $a_{2k} = 5 + 6(k - 1)$

∴ $n = 1, 2, 3, \dots$ に対して,
 ある自然数 k を用いれば,

$$\begin{cases} 6k - 5 & (n = 2k - 1) \\ 6k - 1 & (n = 2k) \end{cases}$$

☆別解 表記の仕方は別にも考えられる.

$n = 1, 2, 3, \dots$ に対して,
 ある 0 以上の整数 k を用いれば,

$$\begin{cases} 6k + 1 & (n = 2k + 1) \\ 6k - 1 & (n = 2k) \end{cases}$$

★ 双子素数

(3, 5) 以外の双子素数 (差が 2 の素数 1 組) は
 $6n \pm 1$
 の形になる.

(2)

n	1	2	3	4	5	6	7	8	9	...
a_n	1	0	$\frac{1}{3}$	$\frac{1}{2}$	0	$\frac{1}{9}$	$\frac{1}{4}$	0	$\frac{1}{27}$...

今度は 0 が 2 項とびで出現している.
 3 項ごとに組み分けして考える.

$$n = 3k - 2, 3k - 1, 3k \quad (k = 1, 2, 3, \dots)$$

と場合分けして考えよう.

3 で割って 1 余る項は,
 初項 1, 公比 $\frac{1}{2}$ の等比数列.
 ⇒ $a_{3k-2} = \left(\frac{1}{2}\right)^{k-1}$

3 で割って 2 余る項は, 0.
 ⇒ $a_{3k-1} = 0$

3 で割って割り切れる項は,
 初項 $\frac{1}{3}$, 公比 $\frac{1}{3}$ の等比数列.
 ⇒ $a_{3k} = \left(\frac{1}{3}\right)^k$

∴ $n = 1, 2, 3, \dots$ に対して,
 ある自然数 k を用いれば,

$$a_n = \begin{cases} \left(\frac{1}{2}\right)^{k-1} & (n = 3k - 2) \\ 0 & (n = 3k - 1) \\ \left(\frac{1}{3}\right)^k & (n = 3k) \end{cases}$$

☆別解 表記の仕方は別にも考えられる.

$n = 1, 2, 3, \dots$ に対して,
 ある 0 以上の整数 k を用いれば,

$$a_n = \begin{cases} \left(\frac{1}{2}\right)^k & (n = 3k + 1) \\ 0 & (n = 3k + 2) \\ \left(\frac{1}{3}\right)^k & (n = 3k) \end{cases}$$